

## #047 日本の学校は ICT が嫌い？

### GIGA スクール構想成功の鍵

#### 谷口博文の政策イノベーション



参考：<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO52905290T01C19A2CC1000/>

昨年 12 月、一つの記事が教育関係者に衝撃を与えました。

OECD が 79 カ国・地域の約 60 万人の 15 歳の生徒に行った学習到達度調査で、日本の高校生の読解力が 8 位から 15 位に転落した、というもの。出題がコンピューター使用型で「日本の高校生はデジタル時代の文章に慣れていない（OECD 局長）」と報道されました。

同時に行われた ICT 活用調査で、デジタル機器がどのぐらい教育現場で利用されているかについての回答は、日本はどの項目も他を大きく引き離して最下位。

例えば数学の授業でデジタル機器を使っているのはトップのデンマーク 85%、OECD 平均 38%、日本は 8%。コンピューターを使って宿題をするのは OECD 22%、日本 3%。校内のウェブサイトで連絡事項を確認するのは OECD 21%、日本 3%。

教育への ICT 導入の重要性は早くから叫ばれてきましたが、現場では予算がない、LAN 整備に時間がかかる、更新が大変、PC のない教室の授業には使えない、教材ソフトがない・・・などできない理由がたくさんあって、一般の先生はほとんど自分の授業にデジタル機器を使ってません。そこで政府は GIGA スクール構想を発表し、今度の補正予算で 2000 億円以上を投じて、小中高校に一人一台のデバイスと校内 LAN を整備しようとしています。

もともと公立小中高校の施設整備は自治体の仕事、教室で ICT を使うのは先生。やる気があればこれまででもできたし、実際やっている学校、先生も少なくないわけですが、今回は格差是正を旗印に全国一律、国が乗り出してきました。

ただこれから起こりそうで心配なのは、生徒・児童にタブレットは配ったけど誰も使わない、という風景が見えてこないか・・・問題はデバイスが何人に 1 台あるかではなく、デバイスが授業で使われるかどうか、自治体、学校、教員が ICT を使って教育の中身を進化させる気があるかどうかです。手段が目的化するのによくあること・・・

これまで日本の小中高校ではスマホの持ち込みは文部科学省の通知で原則禁止でした。見直し中ですが、まだ変わってません。スマホも立派なコンピュータですが「スマホはゲームやチャットに使うもので勉強の邪魔だ。そんなもの授業に要らない。」というのが多くの保護者と教員の考え。

このようにデジタル機器を使って授業を進化させようとするれば、従来の発想や授業スタイルを変えなければなりません。

第一に、それが教育現場でできるか。

第二に、現場のやる気のある先生、つまりユーザーの使いやすさを反映させて、政府や自治体が補助金の制度設計 (User-centered Design) できるか。

この 2 つが GIGA スクール構想成功の鍵だと思います。